

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970400566		
法人名	医療法人 健和会		
事業所名	グループホーム ふれあい天理		
所在地	奈良県天理市中之庄町531		
自己評価作成日	令和5年3月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosvoCd=2970400566-00&ServiceCd=320&Iyoe=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和5年4月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまでの生活歴を大切にしながら、ご入居者様一人一人が「その人らしく」暮らしていただける場所である事を心がけています。優しさや思いやりの心を忘れず、法人理念でもある「患者さん中心の医療・看護・介護」を目指し、入居者様に寄り添った介護を提供していくよう努めています。又、医療・看護・介護の揃った、東病院グループの一角にあることから、グループホームでの生活が難しくなった場合でも、他施設と連携をとりながら、その方にあった生活の場を入居者様・家族様に安心して提供させて頂く事が可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、天理市北部の奈良東病院のふれあいの里の一角にある。周りには、病院だけでなく、特別養護老人ホームや老人保健施設、有料老人ホーム、ケアハウスなどがある。施設の周りには桜が植えられており、春にはすぐ近くで花見をすることができる。建物は、木造2階建ての2ユニットのグループホームである。食事は、メニューを考え食材を調達し、利用者も手伝いながら手作りしており、とても家庭的な雰囲気がある。法人の理念の「尊厳と自由の厳守」と「利用者・職員は共に生活する関係であることを認識する」を常に意識し、職員みんなでサービスに活かせるよう努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関付近に事業所理念を掲げています。	法人の理念を重要事項説明書に記載すると共に、来訪者にも目につく玄関に掲げている。その中の「尊厳と自由の厳守」と「利用者・職員は共に生活する関係であることを認識する」を常に意識し、サービスに活かすよう努力している。できれば法人の理念も踏まえ、事業所独自の年間目標などがあればさらに良いと思われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍であった為、地域の行事等が中止になる事が多く、地域の一人として交流はできませんでした。館長交代で自治会長様に挨拶に伺い、自治会長交代された時には挨拶に来館して下さいました。唯一、食事のお米は地域の農家さんから購入しています。	事業所は、奈良東病院のふれあいの里の一角にあり、地域の集落から離れていて、日常的な交流がしにくい場所にある。さらにコロナ禍で、地域に出かけることも控えており、地域との交流はできていない。お米を地域の農家から購入し、地産地消に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としての取り組みは実施できておりません		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染に対する法人内の対応策もあり開催はしておりませんでした。	運営推進会議は、コロナ禍で実施していなかった。リモート開催や書面開催などの工夫も望まれるが、今年度は、7月からメンバーが集まって再開される予定である。	家族アンケートによると、外部評価結果を見たことがない方が多く、運営推進会議で外部評価結果を報告すると共に、家族にも結果を送付することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの影響で実施できておりません。	市へは、分からないことをお聞きしているが、コロナ禍で直接的な交流はなく、ほとんどメールのやり取りであった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼時や普段の業務の中で、対応策について話し合いを行う際に、どうする事が「身体拘束」になるのか意識的に話を実施しています。玄関は夜間のみ施錠し、日中はセンサーにて対応を行っています。	職員は、新人研修で身体拘束をしないケアについて研修している。玄関は、昼間施錠されていない。現在、身体拘束の事例はないが、3か月に1度、身体拘束適正化委員会を実施し、グレーゾーンも含め職員で話し合う機会があれば良いと思われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では、特にスピーチロックに気を付けています。法人内研修も、コロナの影響で実施出来ていなかった為、学ぶ機会は少なかったと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を利用されている方は1名おられます。制度について学ぶ機会は少ないです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明は行いますが、沢山の書類がある為、一度持ち帰ってもらいゆっくりと確認して頂きます。不明点があれば、連絡をいただけるようお願いさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内、法人内、外部の方を招き第三者委員会を設置し、館内に開示しています。	コロナ禍での面会は、感染状況をふまえながらリモートで行われており、家族から要望を聴く機会がある。また、電話でも利用者の状況を伝えている。最近コロナ禍も治まりつつあり、元のように直接家族と会って、意見や要望を聴くことができたらと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	夏と冬の2回、評価面談時に職員の意見や思いを聞き取っています。また、普段からも話しやすい・声をかけやすい環境作りに気をつけています。	職員からは、毎朝の朝礼や活動の中で要望等を聴いているが、4月より、職員が顔を合わせて職員会議を行えるようになった。会議の前に、職員から意見が出やすいようにアンケートを取っている。年度初めに職員個々の目標や課題を決め、半年ごとに管理者が個人面談を行って意見や要望を聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力に気付けるよう、日々の会話を大事にしています。勤務調整等も可能な限り希望に沿った対応ができるよう調整しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修はコロナの影響で中止されました。法人外への研修参加も、資格として必要な研修に参加するのみでした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会はコロナ感染防止にて行っていませんでした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の業務内での声掛けを積極的に行ったり、不安な事や要望には耳を傾け、どうする事が安心につながるのかを職員間で考えたり、本人と話をする機会をもつようしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入以降の様子について、良い事も悪い事も含め連絡を積極的にとっています。また、ご家族様からの要望や不安な気持ちに寄り添えるような対応を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様にとって何が一番良い選択なのかを考えて対応しています。他のサービス利用が必要だと予測される場合には、ご家族様に早めにお話しをさせていただきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護という部分を意識しながら、職員も入居者様と接しています。調理やお洗濯や掃除等、お互いができる部分で協力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員一人一人が、ご家族様とご本人様の関係を理解しながら情報の共有を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であった為、支援の実施は難しかったです。	クリスマスにクリスマスカードを書いて、写真と共に送った。コロナ禍で、馴染みの人と会ったり、馴染みの場所に出かけることができなかつたが、コロナ禍が収まりつつあり、徐々にもとに戻していく予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間での関わりでは、難しい関係性の方もおられる為、職員が中立の立場を守りながら、支援に努めています。集団レクなどでは入居者様同志協力できる場面もあり、そこから日常の関わりにつなげていきたいと思っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後や同法人内での施設異動後は、入居者様の様子についての聞き取りや、ご家族様との連絡は行っていますが、退居された方への相談や支援については実施できておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしてこられた背景を大事にしながら、その人らしさを残しつつ暮らして頂けるように努めています。また、ご家族様との話で得た情報を考慮しながら、入居者様本位での対応を検討しています。	アセスメントシートで、非常に詳しく利用者の身体状況、ADLやIADL等を記録している。また、生活歴や好きなもの好きな活動なども記録し、思いや意向の把握に役立てている。日々の生活の中でも、利用者の意向を聴くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のお話し合い時に、家族様から情報を聞き取りしたり、ご入居者様からのお話を聞いたりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常業務の中で、入居者様の状況把握に努め、その情報を職員間で共有するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の意向に基づいて介護計画を作成しています。職員一人一人が、入居者様の課題を把握し、ケア内容を話し合っています。	利用者の課題を話し合い、介護計画が立てられている。2週間ごとにチェック表でモニタリングをし、半年ごとに更新されている。内容が、病気や身体面のサポートが中心になっている。	アセスメントシートの生活歴や好きなもの、好きな活動など記録を活かし、本人のプラス面からアプローチした笑顔が増えるプランもあれば良いと思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録には、日常の様子や特記事項を、個人別に記入しています。また、職員で各担当者もち(3人)状態が変わった時等にアセスメントを行うようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染対策の事もあり、柔軟な支援までは出来ていませんが、可能な範囲での対応はさせていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は外部からのボランティア等の受け入れは、コロナ感染対策の事もあり実施できていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に2回に主治医による訪問診療と、敷地内にある病院との連携を行っています。外部の病院へ受診されておられる入居者様もおられます。	事業所の内科の協力医が週2回訪問し、利用者は月1回訪問診療を受けている。歯科医の訪問もある。同法人の病院へは、職員が付き添って受診している。また、看護師が週2回訪問し、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護に来ていただいています。主治医との連携や受診報告等も行い、状態観察や主治医への報告も行っています。早期発見につなげ、早期受診を心がけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の病院との連携は密にできています。普段から経過状況の報告や、施設での現状を伝える事で、退院時期への検討は比較的行いやすいと感じます。また、病院カンファレンスに参加する事もあります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に対する意向を確認し、「終末期意思確認書」を作成しています。その後、状態に変化があった際には主治医からご家族様に連絡し、考えに変わりがなければ、再度確認させていただいています。	入居時に終末期の意向を伺っているが、すぐ近くに同法人の病院があり、重度化した場合は入院される方が多く、この3年で看取りの事例はない。利用者が事業所内での看取りも選択できるよう、具体的な取り組みが望まれる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を定期的には行っていませんが、業務内で話をする機会を作ったり、実際に急変があった際の対応をどのように実施したかの報告を行い、対応についての共有を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会の設置があり、ふれあいの里内での協力体制が出来ています。昼・夜想定を踏まえて年2回の避難訓練を実施しています。水害時の訓練は実施に至っておりません。	年2回、内1回は夜間想定で避難訓練を利用者も参加して実施している。食料や水を3日分備蓄している。事業継続計画(BCP)の作成に向けて取り組んでいる。ふれあいの里内で協力体制を築いている。今後停電対策もできればよいと思われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>接遇委員会の設置があり、第三者評価として他施設職員での接遇チェックの実施がコロナ前まではありましたが、現在は実施されていません。接遇を重んじる法人なので、常に意識して接するように努めています。</p>	<p>職員は、利用者に対して否定的な言葉遣いをせず、個々の人格を尊重して受け止めるよう取り組んでいる。接遇委員会があり、コロナ禍前は法人の他の施設から職員が訪問し、チェックを受けていた。入浴や排泄の介助では、必ず扉を閉めるように気を付け、同性介助を希望する方には、対応している。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>入居者様の思いや希望をお話しされますが、答えを誘導するのではなく、入居者様が自ら答えを出せるように働きかけています。</p>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>時に職員側の都合が優先されている事があります。入居者様の安全面を考えてという思いではありますが、入居者様一人一人にあった臨機応変な対応ができるよう、職員間での情報共有に努めています。</p>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<p>月1回の訪問散髪があります。女性であればスカートをはいておられる方もおられ、可能な限り、これまで生活されていた服装を継続していただいています。</p>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>献立作成・食材調達・調理はホーム内で実施しています。調理の下ごしらえや盛り付け、お皿洗い等、入居者様のできる状況にあわせ、職員と共に行っていただいています。</p>	<p>食事は、メニューを考え食材を調達し、事業所1階の台所で手作りしている。利用者も下ごしらえや盛り付け、食器洗いなど、できる範囲で参加しており、家庭的な雰囲気がある。職員は、毎日1名検食を行って、味や固さを確認している。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<p>摂取量は記録として残しています。水分量も極端に飲水量が少ない方に関しては水分チェックを行っています。今年から、栄養バランスは栄養士さんとの月1回の会議がありますので、メニューを見てもらい助言を頂いています。</p>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<p>毎食後歯磨きをして頂き、磨き残しやご自身では十分な口腔ケアができない方は、職員が補っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の誘導と随時の誘導を状態に合わせて実施しています。排泄の様子は記録に残しています。	利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレで自然な排泄ができるようトイレ誘導をしており、昼間おむつを付けている方はなく、布パンツやリハビリパンツで対応している。夜は、ポータブルトイレを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では、汁物に野菜をたくさん使用しています。トイレ誘導時に腹部マッサージを行ったり、毎日体操を行い体を動かす機会を設けています。薬の処方については、主治医に相談し、訪看による浣腸も実施いただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はユニット毎に曜日を設定していますが、時間をかけて入浴される方は、別の曜日に入浴日を設定し、ゆっくりとご本人様のペースで入浴頂いています。入浴の時間帯は職員の勤務時間に合わせた設定になっています。	お風呂は、週2回入ることができるように支援している。ゆっくり入りたい方には、曜日を変えて対応している。会話を楽しみながら、ゆったりと湯舟に浸かって頂けるよう支援している。ゆず湯をして季節を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のリズムがつけられるよう、昼間は出来る限り活動的に過ごしていただいています。前日不眠があれば、午前中に休憩時間を設けるなど、状況に応じて臥床していただく時間もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等は、理解するように努めています。薬の内容に変更があれば、症状の観察を行い、随時主治医に報告・相談も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	状態に合わせて個々に合った関わりが出来るように努めています。コロナ感染対策の緩和と共に、散歩に出かける機会も増やしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策の緩和と共に、施設周辺に散歩に出かける機会を増やしています。遠出する機会はコロナ感染のリスクもあり実施はできていませんが、ご家族様からもコロナの感染リスクが低くなれば、〇〇に連れて行きたいと思っているというお話もありますので、支援できたらと思っています。	事業所の周囲には、桜が植えられており、遠くに出かけなくても花見をすることができる。天気の良い日は、事業所の周囲を散歩している。また、玄関前にベンチが置かれており、気軽に外気浴を楽しむことができる。コロナが収まりつつあり、少しずつ遠くへ出かける予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物の支援がコロナの影響で実施できていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の状況に応じて、電話連絡をして頂いています。 クリスマスには入居者様からご家族様へ、一言メッセージを記入し、クリスマスカードを送りました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備に努めています。 季節にあったディスプレイを行ない、毎月変更しています。 食事時はテレビを消し、音楽を流して対応しています。	玄関を入ってすぐに廊下があり、廊下の左右に居室が並んでいる。居室と居室の間に、2か所トイレが設置されており、廊下の一番奥には、ベンチスペースがある。玄関右側にダイニングキッチンがあり、テーブル席の他にソファが置かれ、ゆっくり寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が自由に行き来できるように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みの環境を作って頂ける様、自宅での家具の配置を確認したり、これまで使ってこられた物品の持ち込みをお願いする事もあります。	居室入り口には、名前を貼った木のプレートが掛けられている。居室には、クローゼットと洗面台が設置されている。使い慣れたベッドや箆笥、テレビや机など持ち込み、その人らしく居心地よく暮らせるよう工夫されている。カーペットを敷き、布団で寝ている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様同士の関係性などに考慮しながら、自立支援に努めています。自立だから、何もなくて良いのではなく、目配せや気づかいは忘れず、安全面にも配慮した関わりにも努めています。		